

オリックス株式会社 事業開発部 御中

## 「(仮称) 天神丸風力発電事業に係る計画段階環境配慮書」に対する意見

〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学応用生物科学部 野生動物医学研究室  
一般社団法人 日本哺乳類学会 哺乳類保護管理専門委員会 委員長 浅野 玄

「(仮称) 天神丸風力発電事業計画段階環境配慮書」(以下、配慮書)では、事業実施想定区域(約2,990ha)に最大42基の風量発電基を設置すると記載されています。事業実施想定区域及びその周辺は、ツキノワグマの分布域で、2017年にもその利用が確認されています(日本クマネットワーク)。四国の個体群は環境省レッドリストで絶滅のおそれのある地域個体群にランクされています。事業によってツキノワグマが利用する落葉広葉樹林(特にクマの秋期の食物として重要なブナ林)が減少することが予想され、個体群保全上の影響が懸念されます。計画段階配慮事項に係わる調査として行われた専門家へのヒアリングにおいても、事業による環境改変によって、ツキノワグマの行動や個体群に影響する可能性が指摘されています。

一方、配慮書においては、「影響の予測結果」(第4.3-9表)にはツキノワグマを含む哺乳類8種について「事業実施想定区域内に主な生息環境が存在し、その一部が直接改変されることから、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性がある」と予測する。」と記載しているのに対して、「評価結果」では「動物の生息状況を現地調査等により把握し、また、重要な種及び注目すべき生息地への影響の程度を適切に予測し、必要に応じて環境保全措置を検討する。」とだけ記載されており、ツキノワグマに対する評価結果の具体的な記載や「影響の回避又は低減が可能」であるという「総合的な評価結果」につながる科学的な根拠も示されていません。また、そのため、配慮書において「影響の回避又は低減が可能」であるとは判断できず、問題であると考えます。

以上のことから、方法書等以降の手続きにおいて、次の点について配慮することを要望します。なお、本学会(下記参照)には、クマ類の保護管理専を専門とする部会もあり、適切な調査手法や環境保全措置等の立案に関する助言等の協力を惜しみません。

### 方法書等以降の手続きにおいて配慮して頂きたい事項

- 1) 事業実施想定区域及び事業に伴う工事等による、ツキノワグマ(またはツキノワグマ個体群)への影響の程度を適切に評価するための具体的な調査手法を示し、実施すること。
- 2) 事業実施想定区域及び事業に伴う工事等による、ツキノワグマ(またはツキノワグマ個体群)への影響を回避又は低減するための具体的な環境保全措置を提示すること。
- 3) 現地のツキノワグマ(またはツキノワグマ個体群)の状況に詳しい地元の専門家にも意見を求めること。

以上

<日本哺乳類学会および哺乳類保護管理専門委員会について>

「日本哺乳類学会」は、哺乳類に関する知識の進歩と普及を図り、会員相互の交流を促すことを目的として活動している。会員には、大学等に在籍する研究者のみならず学生や一般など広く参加しており、会員数は1,100人を超える。哺乳類保護管理専門委員会は、哺乳類の保護管理に関する諸問題を検討し、適正な哺乳類の保護管理の推進のために必要な諸活動を行うことを目的に、1989年に学会内に設立された委員会である。なお、委員会内にはクマ類の専門家21名からなるクマ保護管理作業部会が設置されている。(学会ホームページ <http://www.mammalogy.jp/index.html>)